



宇城市長 阿曾田 清

三角西港 世界遺産へのハードルは高い！

年の瀬の21日、九州・山口の近代産業遺産群の世界遺産登録に向けて、九州各県関係市による青木保文化庁長官へ要請活動が行われました。

伊藤祐一郎鹿児島知事を筆頭に金子源二郎長崎県知事、野村興児萩市長、江島潔下関市長、そして私が代表して、青木長官と会談し提案書を手渡ししました。

九州・山口の遺産群は、①日本の伝統技術と西洋技術との融合 ②海外との積極的な交流 ③石炭による世界的な海運への貢献 ④極めて短期間での近代化の達成など、日本の近代化に向けて大きな原動力となり、世界的意義を持つことをポイントとして提案しました。昨年、文化庁に世界遺産への登録申請がされ、継続審査と



文化庁長官との会談の様子

※平成20年3月の市長談話室は7日金の予定です。参加ご希望の方は、総合政策課(☎3211803)へ2月20日(水)までにお申し込みください。

なった件数が、現在24カ所あります。また、今後追加希望もたくさんあつており、選挙は一段と厳しくなつてきております。この1年間の行政の取り組みとしては、専門家による現地視察(鹿児島県、福岡県、長崎県、山口県)や自治体でのシンポジウム(萩市、長崎市、宇城市)であります。

青木長官には三角西港の価値を強く訴えてきました(世界遺産暫定一覧表記載遺産候補選定結果は、春ごろにわかる予定です)。

市民レポートの目



小さな里の小さな祭り

瑞穂 その

これは、小川町南海東、西海東の集落7地区(宮園・和田・竹中・嫩迫・野添・鳥越・城若市)の人たちが総出で行い、750年も続いている素朴な川祭りのお話です。

海東を流れる砂川では、昔から村人たちが野菜や着物を洗ったり、馬や農作業の道具の汚れを落としたりし、夏になると子どもたちが水遊びなどをしていました。

ところが、この川には大きなガラツパ(河童)がいて、度々子どもや馬が命を失う不幸が続いていました。これを見かねた村人たちは「ガラツパかもしれん。村一番相撲の強いハマドンに頼もう」ということになりました。

数日後、今にも雨の降りそうな夕暮れ時、ハマドンは河原に座って釣り糸を垂れ、ガラツパが現れるのを待っていました。しばらくすると浮きがピクリと動いてガラツパの手が少し見え、ハマドンが大きな声



ダゴナゲまつり

で「こん川にや、相撲の強かガラツパがおると聞いとつたが、村一番のおが相手にやなりきらんどな」と言うたガラツパが上がつてきました。

そして、相撲対決が始まりました。ガラツパも強くなかなか勝負がつかない。と、その時、突風が吹きハマドンは土手の竹を両手でつかみ、ガラツパの頭を命懸けでけりました。ガラツパは一回転した途端、頭の皿から水がこぼれ、力がなくなつてしまいました。

ハマドンは、「おい、ガラツパ！ お前は、よくも子どもや馬を死なせてくれたな」と言つて、ガラツパの首を絞め上げました。ガラツパは泣きながら「おどんたちが住んどる川ば、村人たちが汚すから懲らしめるためにしてきました。おらが命はいりません。その代わり、お彼岸



海東阿蘇神社に祀られているガラツパ像

にガラツパの子どもたちが好きな「ダゴ」ば作つて川に流してください」と頼みました。心の優しいハマドンはガラツパを逃がしてやりました。それから、春と秋の彼岸に村人たちは祭壇を作り、川を清めて水難事故が無いようにと感謝と祈りを込めて、「川だご」を投げるようになったそうです。750年以上たった今でも、伝統を受け継ぎ彼岸には「ダゴナゲまつり」が行われています。白石幸雄神官の「ダゴ」の掛け声で河原に作つた祭壇を倒し、だご桶を川の中に持ち込みだごの奪い合いが始まります。それを見物人が見るとい珍らしい水神様のお祭りです。ちなみに、平成7年に小川町的那須基夫さんから寄贈された「ガラツパ像(藤本鬼瓦製作所作)」が海東阿蘇神社に祀られています。

派遣職員の東京見聞録

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は熊本県東京事務所の野村烈さんです。

「おばあちゃん原宿」菓嶋。ある日の新聞に「菓嶋駅前商店街アーケードが変わる」「ソーラーシステム導入へ」という見出しを見て、早速現地へ。JR菓嶋駅から、とげぬき地蔵で有名な地蔵通り商店街へ向かう途中のアーケード街が設置場所。豊島区のホームページによると、3月中旬までに道の両側合わせて約250mに188枚のソーラーパネルを設置、費用は1億7000万円とのことでした。単純に1枚約90万円掛かる計算ですが、商店街で使用する電力の10%を削減できる見込みだそうです。



威勢の良いおばあちゃんたちの声が響く地蔵通り、若い女性客も多い

ところで、区と新聞で気になる表現の違いがありました。区では「人にやさしい、地球にやさしい」。新聞では「お年寄りにも環境にも優しい」となっていました。

菓嶋は、「おばあちゃん原宿」という素晴らしいキャッチコピーを持っています。日本中でここまで特殊なイメージを持つ地域は少ないでしょう。それなのに「人にやさしい、地球にやさしい」ではせっかくの特長が生きません。まあおこしには民・官一体となったイメージ戦略も必要だと思います、硬くなりがちな私たち役所の人間の文章ですが、場合によっては、誰に何をPRしたいのかを優先し、特徴やイメージを端的に伝える工夫をすれば、少々重そうな扉でも、すつと開いていただけられるかもしれません。「私も気を付けなければ・・・」と自戒した冬の日でした。

ジョハンナ・ディレオン先生の日本つれづれ日記



ジョハンナ・ディレオン先生の「日本つれづれ日記」

「バレンタインデーについて」 今月2月14日は、世界各地で祝われるバレンタインデーです。私は日本に来て2年目なので、昨年は日本のバレンタインデーを経験することができました。アメリカと日本のバレンタインデーの違いは本当に面白いです。

日本では、たいてい2月14日に女の子が男の子へチョコレートやプレゼントをします。女の子たちは、チョコレートや手作りのお菓子を、義理チョコ、友チョコ、本命チョコとして、同僚や友達、好きな人に渡します。そして、1カ月後の3月14日(ホワイトデー)にチョコレートをもらった男の子たちは女の子へお返しをします。

アメリカでの伝統的なバレンタインデーは少し違います。男性も女性も関係なく、みんながプレゼント交換をします。学校でも、先生や両親がクッキーなどのお菓子や飲み物を準備してパーティーが開かれ、バレンタインカードをお互いに交換した

り、ゲームをしたりします。小学生のころ、私は、クラスメートに送るカードがたくさん入った箱を買いに行くのが大好きで、何週間も前からみんなへのメッセージをノートに書いていました。私たちのクラスは36人だったので、全員分のプレゼントを用意するのにとても時間が掛かりましたが、カードやキャンデーをもらう時は、いつもワクワクしていました。 また、バレンタインデーには生徒も先生もみんな赤や白の服を着て学校に来るので、お祝いムードでいっぱいになります。 男性も女性もプレゼントの交換をしますが、男性が女性にプレゼントすることの方が重視され、たいていの場合、男性が女性にプレゼントをします。また、女の子へのプレゼントを必死に選んでいる男の子を見るのは本当に面白く、男の子たちはとても心配そうな顔で選んでいます。

わが家では毎年、バレンタインデーに父は母に12本の赤いバラにメッセージを添えて送ります。そして、おしゃれなレストランへ連れて行き、キャンドルとワインで食事を楽しみます。母は父におしゃれなシャツをプレゼントし、クッキーを焼いたり、チョコレートを買ったりしています。両親は私と妹にもキャンデーやクッキーをくれます。私は妹と両親にバレンタインのプレゼントとして映画のチケットを贈ります。 バレンタインデーに外に出掛けるのも一般的です。14日の夜の街のレストランはデート中のカップルでいっぱいになります。映画を見に行ったり、スケートに行ったり、公園を2人で散歩する姿も良く見られます。 私は、アメリカのバレンタインデーの習慣、みんながプレゼントの交換をするというところが好きです。でも、日本の習慣も、バレンタインデーとホワイトデー2回お祝いできて良いと思います。両方の国で言えることは、バレンタインデーの考え方は同じで、愛情や友情を大切な人に伝えるということです。皆さん、素敵なバレンタインデーをお過ごしください。